

生活者通信

東京生活者ネットワーク

No.278

2014.11.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

■発行 東京生活者ネットワーク
 ■〒160-0021
 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
 TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274
 ■Eメール tokyo@seikatsusha.net
 ■ホームページ http://www.seikatsusha.me
 ■発行責任者 西崎光子
 ■定価 年間1000円・1部100円
 ■郵便振替口座 00130-3-18417

都 東京都議会第4回定例会の開催（11月28日～12月5日）。市区町村における教育・保育サービスの需要予測の再調査。

ネット ●昭島 憲法カフェ：憲法・集团的自衛権はこれからどうなる!? 11月22日（土）16:00～ 昭島市民ホール 対論：伊藤真さん（弁護士）・長島昭久さん（衆議院議員）参加費500円
 ●府中 産む、産まない、生まれる命を考える～女性のからだと生殖医療～ 11月23日（日）13:30～ 府中市女性センター ドキュメンタリー映画上映と柳原良江さん（代理出産を問う直す会代表）講演会
 ●府中 わくわくサロン 11月28日（金）14:00～ 府中生活者ネットワーク事務所 私のための成年後見制度：岡野恭代さん（司法書士）
 ●練馬 生活者宣言のつどい・鎌仲ひとみ監督と見る 話す「カノンだより」11月30日（日）14:00～ 石神井公園区民交流センター 資料代500円
 ●江東 公開討論会「我がまちの防災」にひと言 11月30日（日）13:30～ 江東区総合区民センター 資料代300円
 ●大田 レイチェル・カーソンが教えてくれたこと「いのちの循環」を見つめて 12月5日（金）14:00～ Luz大森 上遠恵子さん（エッセイスト、翻訳者）講演会 参加費500円
 ●武蔵野 生活と政治をむすびつけて20年 12月6日（土）14:00～ 武蔵野プレイス 講演：竹村英明さん（脱原発政治連盟「緑茶会」代表、市民電力連絡会会長）

古くなった公園の再整備を市民参加で

身近な公園が「迷惑施設」に？

高度経済成長期につくられた公園の老朽化が進んでいます。遊具が劣化したままの公園、樹木が育ちすぎて、枝打ちと落ち葉管理にかかると費用も自治体にとつて大きな負担です。

市民参加で公園再整備プランづくり

公園という身近な公共空間を、自分たちのものとして捉え直し、魅力ある空間に再生するにはどうすればよいのでしょうか。

公園をまちづくりの舞台に

生活者ネットワークも共に活動する、生活クラブ運動グループ・西東京地域協議会でも現在、身近な公園のあり方についての協議がスタートしました。まずは市内各所の公園の整備・利用状況について市民の目線で調査し、公園再生のための提案をまとめていこうと考えています。

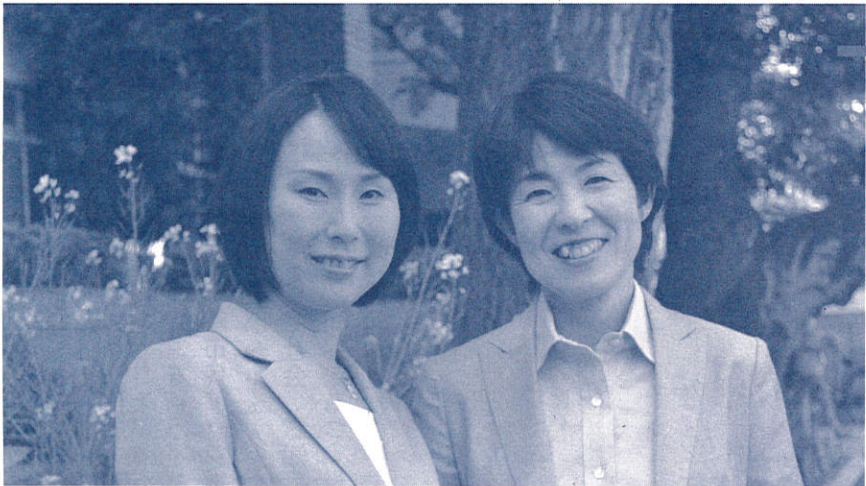
とりわけ、町中にある小規模な街区公園の管理運営は、都市近郊自治体に共通する悩みです。古い住宅街では地域が高齢化し、「子どもの声が気になる」「ボールが飛んできて危ない」等のクレームが増えています。その場で注意すれば解決できる問題ま

千葉県松戸市では2013年から市内計15カ所の公園を対象に、住民参加型ワークショップで再整備プランを順次策定しています。ワークショップは全4回、初回には必ず実地を行い、公園の現状と課題を市民自ら洗い出します。子育て世代から高齢者まで、幅広く参加を呼びかけたことで多世代間のコミュニケーションが図られ、公園に対する多様なニーズがあることを当事者同士が理解し合うきっかけにもなっているそうです。

公共空間が狭められる中、公園は数少ない市民共有の財産です。子どもが思いきり遊べる公園、コミュニティの防災拠点となる公園など地域のニーズを出し合い時には汗をかきながら公園を私たち市民のまちづくりの舞台として積極的に活用していきたいと考えています。

身近な公園をめぐるトラブルが、近年増加しています。「子どもの声がうるさい」「ボール遊びが危険」——行政に苦情を言いつけるだけでは問題解決にならないばかりか、公園のさらなる利用制限にもつながりかねません。一方、古くなった公園の再整備計画にワークショップなど市民参加の手法を採り入れる自治体も出てきました。市民とともに守り育てる公園づくりへの一歩とは？ 千葉県松戸市の先行事例から考えます。

西東京・生活者ネットワーク政策委員長 ●かとう 涼子



市民の共有財産、身近なまちの公園をウオッチする西東京・生活者ネットワーク政策委員長のかとう涼子（左）と、副代表の後藤ゆう子



住民参加のワークショップが行われた、松戸市常盤平地区の金ヶ作公園

昨年度ワークショップが開催

あんてな

障害者の体験を聴く、知り合う場 風車(かざぐるま)カフェ

長野一郎

風車カフェは、障害がある当事者やその家族、支援者らが月に一度集まってお菓子をつまみながら障害者の日常生活の苦労について知り合おうという気楽な勉強会です。私は全盲で品川在住歴35年。この町に愛着があるだけに、障害の有無に関わらず、住みやすい町になればという思いがあります。

近頃区内には、車が歩道に乗り上げないように侵入防止用のポールが歩道に立ち始めました。私は白杖で確認しているつもりですが、しばしばこのポールに股間を打ちつけ

て痛い目に遭っています。障害物は除去して欲しいと警察に申し入れましたが、車の進入を阻止する方が公益に叶うと、聞き入れてもらえません。一方、横断歩道を安全に渡れるよう、音響信号機の設置を強く訴えています。設置率は区内全体の信号機の1割にしか過ぎません。騒音対策や予算措置に時間がかかるというのが遅れの一因だとか。また、その1割ですら何処に設置されたか判りません。なぜなら、そのほとんどは障害当事者の意見を聴かず設置されていて自らがボタンを押して作動させる視覚障害者泣かせの音響信号機だからです。

これらはほんの一例です。そして、別の障害当事者には、また別の苦労があるわけで、当事者間でも利害相反する場合があります。例えば道路と歩道の段差。視覚障害者には、段差は車道に出ないために必須ですが、車椅子利用者

には反対に障害物となります。このように、ある障害者に必要なものが他の障害者には不要であること、障害の有無で用不要の対立があること。これらがある障害者の体験を通して、参加者が学び合う場、それが風車カフェ。風車カフェは生まれただけの勉強会です。色々な障害当事者の体験を通して相互認識を深め、この輪を大きく広げていきたいと思っています。



▲風車(かざぐるま)カフェに集まるメンバーが、「障がい者にやさしい」まち歩き。音響信号をチェック